

公表 事業所における自己評価総括表

○事業所名	共生型放課後等デイサービスふじの家段原		
○保護者評価実施期間	2024年 12月 15日		～ 2025年 1月 14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数) 9
○従業者評価実施期間	2024年 12月 15日		～ 2025年 1月 14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 1月 28日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	共生型施設として、高齢者デイサービスと放課後等デイサービスを一体的に運営しており、利用している子どもたちが、日常的に高齢者とのかかわりが持てること。	放課後、休日ともに、レクリエーションやおやつ時間を一緒に過ごせるなど、日常の中に高齢者をはじめ、様々な人たちとのかかわりを持つことで、社会性を育てている。	日常的なかかわりを持つことに加えて、季節ごとのイベントや共同制作を行い、様々なかかわりを通じて子どもの成長を支援する。
2	一人ひとりの個性を大切に、子どもたちが自分らしく過ごせる環境づくりを行っている。	一人ひとりの子どもに合わせた支援の環境整備を行い、個別のプログラムを提供している。また、保護者や学校との連携をとることで、一体的な支援を行うよう取り組んでいる。	保護者や関係機関との連絡を密に行い、支援チームがより協力することで、子どもの成長を支援する。
3	多職種で子どもたちの療育にかかわっていること (児童発達支援管理責任者、看護師、児童指導員、保育士、介護福祉士等)	看護師による健康管理等、多職種の専門性を活かした関わりを行える	福祉・医療・介護それぞれの知識を活かしたアセスメントの充実

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	より専門性の高い職種の確保 (現在、児童発達支援管理責任者・保育士を配置)	共生型施設として、高齢者介護を行っている職員が子どもにかかわることができるという反面、そこに対する研修や教育が必要になる。	各職員が専門性を高めるための研修や勉強会に参加し、様々な障がいや特徴のある子どもにも対応できるスキルを身につける。また、資格取得を推進し、専門性の高い職種の雇用につなげていく。
2			
3			

公表 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 共生型放課後等デイサービスふじの家段原

公表日 2025年 1月 30日

利用児童

数 2024年 12月 15日

回収数 9

	チェック項目	評価				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	8	1	0	0		
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	7	2	0	0	いつも助かっています	引き続き、質の高いサービス提供を行えるよう努めてまいります。
	3 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	9	0	0	0		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間になっていると思いますか。	9	0	0	0		
適切 な支 援の 提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	9	0	0	0		
	6 事業所が公表している支援プログラム(※2)は、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	9	0	0	0		
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画(個別支援計画)(※3)が作成されていると思いますか。	9	0	0	0		
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	7	0	0	2		
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	9	0	0	0		
	10 事業所の活動プログラム(※4)が固定化されないよう工夫されていると思いますか。	7	1	0	0		
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	1	6	0	1		地域交流等の情報発信が十分ではないため、充実した活動報告を行います。
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	9	0	0	0		
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	9	0	0	0		
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング(※5)等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	8	1	0	0		
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	9	0	0	0	送迎時や、メール、連絡ノートでやり取りしています。	引き続き、保護者の方々との情報共有を行ってまいります。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	9	0	0	0		
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	9	0	0	0		
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	1	5	0	3		保護者会の開催を検討し、保護者同士の交流の機会を確保します。
	19 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	7	2	0	0		
	20 こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	9	0	0	0		
	21 定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	3	5	0	1		SNSを活用した情報発信を行っています。
22 個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	9	0	0	0			

非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防災マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	7	2	0	0		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	4	4	0	1	以前参加したことがあります。	計画的に災害に備えた訓練を実施します。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	7	2	0	0		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	9	0	0	0		
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	9	0	0	0		
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	8	1	0	0	気分にはありますが、楽しみにしていません。	楽しみに通えるようなプログラムやイベントを検討します。
	29	事業所の支援に満足していますか。	9	0	0	0	いつも本当に助かっています。体も大きくなり力も強くなった分、大変なことも多くあると思いますが、本人に寄り添って対応してもらい、ありがとうございます。	ありがとうございます。引き続き子どもに寄り添った支援を行っていきます。

公表 事業所における自己評価結果

事業所名	共生型放課後等デイサービスふじの家段原		公表日	2025年 1月 30日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		利用定員に対して十分なスペースを確保しており、目的別にスペースを分けています。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		共生型の人員基準以上の職員配置を行っており、必要に応じて加配しています。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		手すりの設置やフロアのフラット化などバリアフリーへの配慮を行っており、身体を動かす場所と座って活動できる場所を分けています。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		清潔に過ごせる環境を整えております。また、様々な活動を選択できるよう、空間を区切るなどの工夫をしながら環境整備を行っております。	音を遮断できないため、音に敏感な子どもは別室対応を行うことになる。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		子どもの状況に合わせて、別室での活動を行えるよう用意しております。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		毎月評価会議を行い、情報共有と意見交換を行っています。必要に応じて療育プラン更新・変更をしています。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		1年に1回アンケートを実施しており、保護者の方々からのご意見やご意向を職員間で情報共有し、今後の業務改善につなげています。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		定例会議や終礼等の時間を活用し、意見交換を行っております。	情報共有や意見交換は十分に行えているが、十分に業務改善につなげていけないため、具体的な改善策定会議を設置
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	第三者外部評価は行っていません。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		オンライン研修も活用し、計画的に様々な研修を行っております。	職員が研修の機会を持てるよう計画的な研修を実施する。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		ホームページに公表しております。	
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		定期的のアセスメント、ニーズや課題について分析した上で、計画書の作成を行っています。	
	13	支援担当者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		計画の内容について、全職員に周知し、子どもにかかわる職員が共通理解を持ったうえで、様々な検討を行っております。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○			
	15	こどもの活動状況や、標準化したツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		毎月会議を開催し、活動プログラム等について話し合い、一人ひとりの療育につなげています。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		季節ごとのクラフト活動やおやつレク、運動遊びなどを取り入れて、活動プログラムが固定化されないように勤めております。また、地域の放課後児童クラブとの交流も行い、地域との交流も図っています。	今後は季節ごとのイベントに子どもたちが準備から携われるような企画を行います。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		子どもの状況に応じ、個別活動・小集団活動を組み合わせた活動を行っています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		支援開始前に情報共有を行い、予定の確認やその日の役割分担を確認しています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		支援終了後、振り返りを行っております。情報伝達のノートを活用し、全職員が情報を把握できるようにしています。	

	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		毎日利用ごとに記録を取っております。また、支援の改善のために必要な情報はタイムリーに共有しています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		定期的なモニタリングを行い、必要に応じ計画の見直しを行っています。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせず支援を行っているか。	○		放課後等デイサービスガイドラインに基づき「自立支援」「創作活動」「地域交流」「余暇支援」の視点で活動プログラムを立てております。	
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		子どもが自己決定ができるような計画を策定し、また、プログラムにも組み込んでおります。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		主に管理者が参加しており、会議前には情報を担当職員と整理して臨んでいます。	今後、管理者以外にも子どもにかかわる職員が各会議に参加できるよう調整します。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		必要に応じて学校をはじめ、関係機関との連絡調整を行い、子どもの支援を協力して行います。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		学校とは必要に応じ、担当の職員と電話や面談にて情報共有を行っています。また、保護者とも同様に情報共有を行っております。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		保護者との情報共有を行い、保育園や児童発達支援事業所での状況把握に努めています。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		学校を卒業する子どもが障害福祉サービス事業所へ移行する際、保護者を通じて支援内容等の情報提供を行います。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイザーや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○	○	療育センター、相談支援専門員と常に連携を取っております。児童発達支援センターとの連携事例は現在のところありませんが、必要に応じて連携を取ってまいります。	児童発達支援センターとのつながりを持ち、必要に応じてスーパーバイザーの受け入れも行っていきます。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		地域の放課後児童クラブとの交流会を実施し、障害のない子供たちとの交流の機会を持ちました。	引き続き、地域の子どもとともに活動する機会を設けます。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		南区の部会へ参加しており、他事業所や行政機関との情報共有を行っています。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	○		送迎時や連絡帳を活用し、情報共有をしています。また、必要に応じて電話や面談を行っております。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		相談があった時には、提案・助言を行っています。	必要に応じて家族の参加できる研修会の企画を検討します。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時等必要に応じて、丁寧な説明を行っております。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		定期的及び随時、子どもや保護者の意向確認し、計画作成を行っております。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		面談の中で、計画書を示したうえで、支援内容の説明および同意を得ております。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		随時相談や助言を行っております。	今後、面談を含めた相談の機会を更に増やしていくよう努めます。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	○	○	昨年度は開催に至りませんでした。	今年度は改めて開催できるよう計画します。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情対応マニュアルを定め、適切に対応しております。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		会報の刊行はしていませんが、イベントの開催時は連絡ノートや案内文にて連絡をしています。	SNSでの情報発信を定期的に行っています。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報やプライバシーには十分に注意した対応を行っております。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		子どもや保護者の状況に合わせて配慮をした対応を行っております。言語的にも、視覚的にもよりわかりやすい方法を検討してまいります。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		毎月認知症カフェを開催し、地域住民との交流を図っております。	

非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		マニュアルを策定し、職員を対象に研修を行なっています。保護者の皆様に知っていただけるよう周知いたします。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		年に2回の避難訓練を行っており、子どもも参加しております。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		サービス開始前には、必ず健康状態や服薬状況を確認しております。	
	49	食物アレルギーのあることについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		○	医師からの指示書はありませんが、保護者にアレルギー等の詳細を伺い、書面にて管理しています。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		子どもの安全に最大限配慮した支援を行っております。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		毎日支援終了後に確認し、ヒヤリハットのファイルを作成し共有しています。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		外部研修への参加に加え、事業所内でも定期的に虐待防止の研修を行っております。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		生命又は身体を保護するため緊急やむを得ない場合を除き身体拘束を行わない旨を運営規定及び重要事項説明書にも明記しております。やむを得ず身体拘束を行う場合には、子どもと保護者に対し十分な説明を行ったうえで、計画書に記載し、適切な手順で対応しております。		